

ハイデッケル教授の想い出

三木清

青空文庫

私がハイデルベルクからマールブルクへ移ったのと同じ頃にハイデッゲル氏はフライブルクからマールブルクへ移つて来られた。私は氏の講義を聴くためにマールブルクへ行つたのである。

マールブルクに着いてから間もなく私は誰の紹介状も持たずにハイデッゲル氏を訪問した。学校もまだ始まらず、来任早々のことでもあつて、ハイデッゲル氏は自分一人或る家に間借りをしておられたが、そこへ私は訪ねて行つたのである。何を勉強するつもりかときかれたので、私は、アリストテレスを勉強したいと思うが、自分の興味は日本にいた時分から歴史哲学にあるのでその方面的研究も続けてゆきたいと述べ、それにはどんなものを読むのが好いかと問うてみた。そこでハイデッゲル教授は、君はアリストテレスを勉強したいと云つているが、アリストテレスを勉強することがつまり歴史哲学を勉強することになるのだ、と答えられた。そのとき私には氏の言葉の意味がよくわからなかつたのであるが、後に氏の講義を聴くようになつて初めてその意味を理解することができた。即ち氏に依れば、歴史哲学は解釈学にほかならないので、解釈学がどのようなものであるかは自分で古典の解釈に従事することを通じておのずから習得することができるるのである。大学

での氏の講義もテキストの解釈を中心としたもので、アリストテレスとか、アウグスティヌスとか、トマスとか、デカルトとかの厚い全集本の一冊を教室へ持つて来て、それを開いてその一節を極めて創意的に解釈しながら講義を進められた。私は本の読み方をハイデッゲル教授から学んだように思う。

シュワン・アレーに定められた教授の宅へは私も時々伺つたが、そこにドイツ文学の古典の全集がぎつしり並んでいたのが特に私の注意を惹いた。それを私はいさか奇異の感をもつて眺めたのであるが、昨年『ヘルデルリンと詩の本質』という氏の論文を読むに至つてその関係が明瞭^{めいりょう}になつた。最近氏の講義には芸術論が多いということである。氏は一度フライブルク大学の総長になられ、あの『ドイツ大学の自己主張』にあるような思想を述べられたこともあるが、ナチスとの関係が十分うまく行かなかつたためか、総長の職は間もなく退いてこの頃では主として芸術哲学の講義をしていられるよういわれている。日本でもマルクス主義に対する弾圧が激しくなつた頃多くの人が芸術論に逃れたことのあつたのを私は想い起し、ハイデッゲル教授の現在の心境を察し、一般に哲学と政治との関係について考えさせられるのである。

マールブルクのハイデッゲル教授の書斎で私の目に留つたのはもう一つ、室の中央にあ

つた教会の説教机に似て立ちながら本を読んだりものを書いたりすることのできる高い机である。あんな机が欲しいものだと時々想い出すのであるが、私はいまだそれを造らないでいる。

青空文庫情報

底本：「読書と人生」新潮文庫、新潮社

1974（昭和49）年10月30日発行

1986（昭和61）年9月30日20刷

初出：「読書と人生」

1939（昭和14）年1月

入力…Juki

校正…小林繁雄

2010年1月5日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) に作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆様です。

ハイデッケル教授の想い出

三木清

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>